【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成22年1月28日(2010.1.28)

【公開番号】特開2008-146260(P2008-146260A)
【公開日】平成20年6月26日(2008.6.26)
【年通号数】公開・登録公報2008-025
【出願番号】特願2006-331137(P2006-331137)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｔ　17/40　　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　 1/60　　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　 1/46　　(2006.01)
Ｇ０６Ｔ　 1/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｔ　17/40　　　Ｂ
Ｈ０４Ｎ　 1/40　　　Ｄ
Ｈ０４Ｎ　 1/46　　　Ｚ
Ｇ０６Ｔ　 1/00　５１０

【手続補正書】
【提出日】平成21年12月7日(2009.12.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
オブジェクトデータに含まれる位置情報に従ってワールド座標に配置されたオブジェクトを、ワールド座標に配置されたスクリーンに投影することによって当該スクリーン上に得られる擬似３次元画像を生成する生成手段と、
前記擬似３次元画像の各画素の色値を、該画素に投影されている前記オブジェクトの前記オブジェクトデータに含まれる第１のアピアランス情報を用いて、知覚値に変換する順変換手段と、
前記擬似３次元画像の各画素の前記知覚値を、該各画素に共通に使用される予め定められた第２のアピアランス情報を用いて色値に変換することにより、色変換後の擬似３次元画像を生成する逆変換手段と、
を有することを特徴とする画像生成装置。
【請求項２】
前記第１のアピアランス情報は、順応白色点であることを特徴とする請求項１に記載の画像生成装置。
【請求項３】
前記第１のアピアランス情報を、ユーザの指示に応じて設定する設定手段をさらに備えることを特徴とする、請求項１又は２に記載の画像生成装置。
【請求項４】
オブジェクトデータに含まれる位置情報に従ってワールド座標に配置されたオブジェクトを、ワールド座標に配置されたスクリーンに投影することによって当該スクリーン上に得られる擬似３次元画像を生成する生成工程と、
前記擬似３次元画像の各画素の色値を、該画素に投影されている前記オブジェクトの前記オブジェクトデータに含まれる第１のアピアランス情報を用いて、知覚値に変換する順

変換工程と、
　前記擬似３次元画像の各画素の前記知覚値を、該各画素に共通に使用される予め定められた第２のアピアランス情報を用いて色値に変換することにより、色変換後の疑似３次元画像を生成する逆変換工程と、
　を有することを特徴とする画像生成方法。
【請求項５】
　コンピュータ上で実行されることによって、該コンピュータを請求項１乃至３のいずれか１項に記載の画像生成装置が有する各手段として機能させることを特徴とするコンピュータプログラム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
　すなわち、オブジェクトデータに含まれる位置情報に従ってワールド座標に配置されたオブジェクトを、ワールド座標に配置されたスクリーンに投影することによって当該スクリーン上に得られる擬似３次元画像を生成する生成手段と、前記擬似３次元画像の各画素の色値を、該画素に投影されている前記オブジェクトの前記オブジェクトデータに含まれる第１のアピアランス情報を用いて、知覚値に変換する順変換手段と、前記擬似３次元画像の各画素の前記知覚値を、該各画素に共通に使用される予め定められた第２のアピアランス情報を用いて色値に変換することにより、色変換後の擬似３次元画像を生成する逆変換手段と、を有することを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
　本発明によれば、オブジェクトごとに設定されたアピアランス情報を用いて変換することにより、人間の視覚の順応状態に基づいた良好な擬似３次元画像を生成することができる。